

SDGs 未来都市優良事例紹介

福山市立大学都市経営学部
上別府隆男

2020-2022 年全国の SDGs 未来都市に採択された自治体を中心に SDGs と地方創生に関するヒアリングを行ったが、その結果を踏まえた優良事例の紹介である。

1. 福島市 (2021 年採択)

令和3年度「福島市SDGs未来都市」(福島市)

タイトル：東日本大震災と原発事故から10年、世界にエールを送るまち ふくしま

全体概要：震災から10年、まちづくりに主体的に関わり行動しようという若者世代の動きが顕著となる中、若者世代を原動力に連続テレビ小説「エール」・東京2020大会のレガシーを生かした本市ならではのまちづくりや、風評払拭、ゼロカーボン、若い世代を呼び込む施策等を展開し、アクティブで面白い持続可能な地域社会の構築を目指す。

経済 【課題】 農産物や観光の根強い風評被害、消費や生産活動の縮小などによる中心市街地の活力低下 【課題を解決するための取組】 ①福島駅東口地区市街地再開発事業 ②福島駅前文庫・乗客拠点施設整備事業 ③新まちなか広場整備事業 ④風評対策事業(駅前軽トラ市など) ⑤「朝トラ「エール」」のレガシーを生かした被災3県連携事業 ⑥訪日観光客受入環境整備事業 ⑦クリエイティブチャレンジ支援・ビジネスサロン整備事業 ⑧「ふくしま創生福島7プラス」開設支援事業 ⑨ものづくりNEXTチャレンジ支援事業 ⑩シティセールス推進事業 など	三側面をつなぐ 統合的な取組 【令和3年度の取組予定】 ①若者を街なかに呼び戻すため、街なかににおける若者の創造的活動スペースの確保 ・高校生や大学生の勉強スペースの拡充 ・ストリートスポーツを気兼ねなく行える場の調査研究 【今後の取組予定】 ②若者のビジネスモデルコンテストの開催 ③若者や女性向けの起業サポート ④市内のベンチャー企業による若者向け起業体験プログラムの実施	社会 【課題】 子育て世代や若者世代等の人口流出、地域におけるまちづくり担い手の高齢化 【課題を解決するための取組】 ①東京2020大会のレガシーを生かした「バリアフリー・多文化共生・スポーツのまち」推進事業 ②子育てと教育なら福島市推進事業 ③待機児童対策推進パッケージ ④結婚新生活支援事業 ⑤健康ふくしま創生健康づくり事業 ⑥地域コミュニティ等支援事業 ⑦「古閑福而のまち ふくしま」推進事業 など
---	---	---

【図の説明】

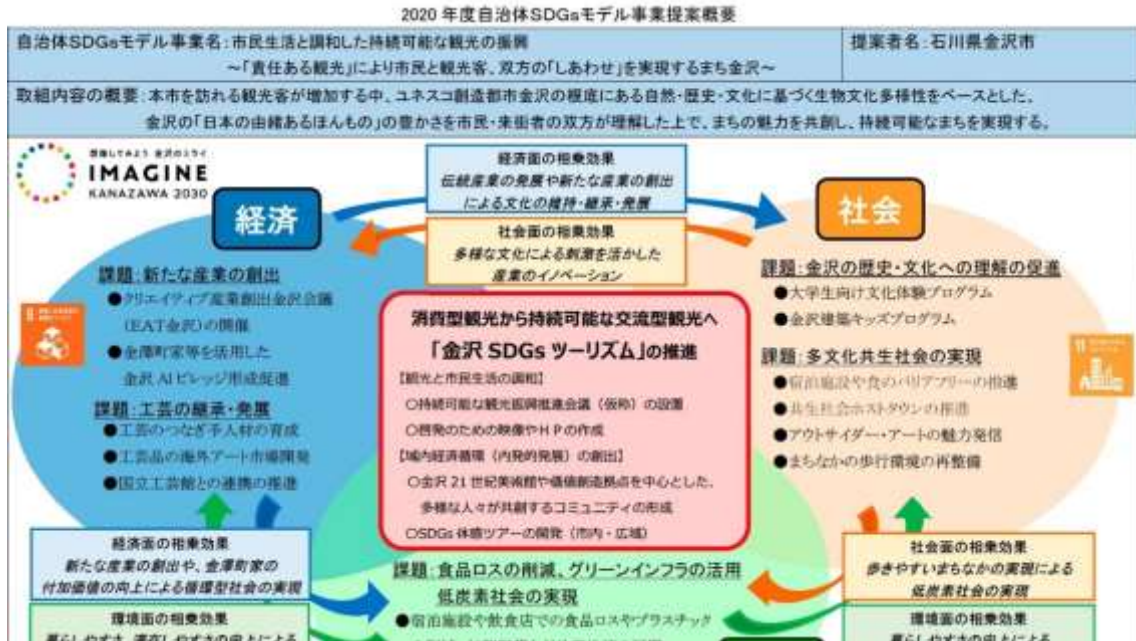
- ◆「経済」「社会」「環境」の枠内に記載の内容は、令和3年度当初予算に盛り込んだ取組。
- ◆中央の赤枠「三側面をつなぐ統合的な取組」は、SDGs未来都市の選定を受けて、今後新たに取組む予定の内容。

環境
【課題】
地球温暖化の影響と推測される気候変動、自然環境の保全、除染除去土壌の現場保管の早期解消
【課題を解決するための取組】
①ゼロカーボンシティ推進事業
②シェアサイクル管理運営事業
③地域公共交通活性化事業
④ごみ減量大作戦事業
⑤気候変動対策事業
⑥ムクドリ・愛鳥対策対策事業
⑦放射線対策事業(除染除去土壌搬出、環境放射線量測定事業) など

自然

- 自分たちが独自の街づくりにできることをする中で SDGs に貢献するというスタンスを取る。
- 市民への出前授業は高齢者が意外に多く、子供や孫から聞いたことが大きいのでは。大人から子供ではなく、逆の流れが SDGs では起きている。
- 東北の被災 3 県のつながりはあるが、県内でのつながりは特にはない。県は未来都市ではないが、企業の認定制度など仕掛けを作っている。
- SDGs は目的ではなく手段 (バックキャスト) として。ポジティブにこうなりたいという未来に向けて、遡って考える。
- 目標 18 は福島復興。

2. 金沢市（2018年採択）

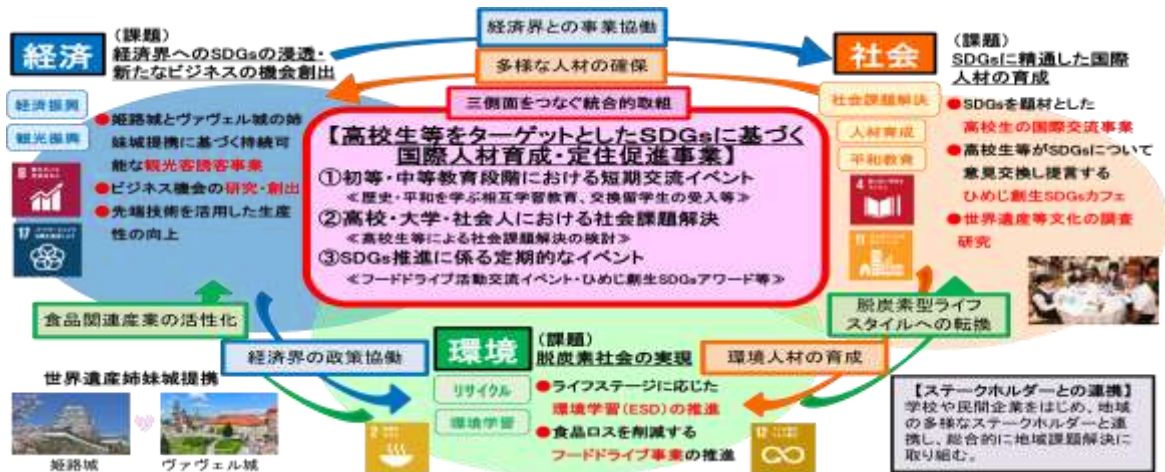


- 石川県は未来都市県内 9 つで全国最多。
- 市役所の役割は市民にサービスを提供することを超えて、市民が主体的に問題も関わることにより市全体や地域に貢献できるような環境作り、プラットフォーム作りをすることも大事。行政では見つけにくいリソースや課題を市民や企業が発掘し、行政依存ではない解決策を探る動きを促すのは、この複雑化する世界ではとても必要。
- SDGs 推進は市の主導とせず、市の負担や責任、市への依存を減らす効果。
- SDGs の共通言語、マグネット、交流拠点としての役割。SDGs の包括性がつなげる（シングルマザーと花王の化粧とのつながりの例）。
- 確かに SDGs はメリットが見えにくいところはあるが、SDGs なしには関係が一見見えにくい分野が SDGs の網羅性でつながるといふ発見、再発見の可能性を持つ。

3. 姫路市（2021年採択）

姫路市 SDGs 未来都市～世界をつなぐ SDGs 推進都市ひめじの夢～（2021年選定）

1. 郷土愛を育み、脱炭素型のライフスタイルを身につけた SDGs マインドを持つグローバル人材の育成
2. 日常生活や経済活動の中で 2050 年脱炭素社会の実現に向けた「ゼロカーボンシティ」の取組



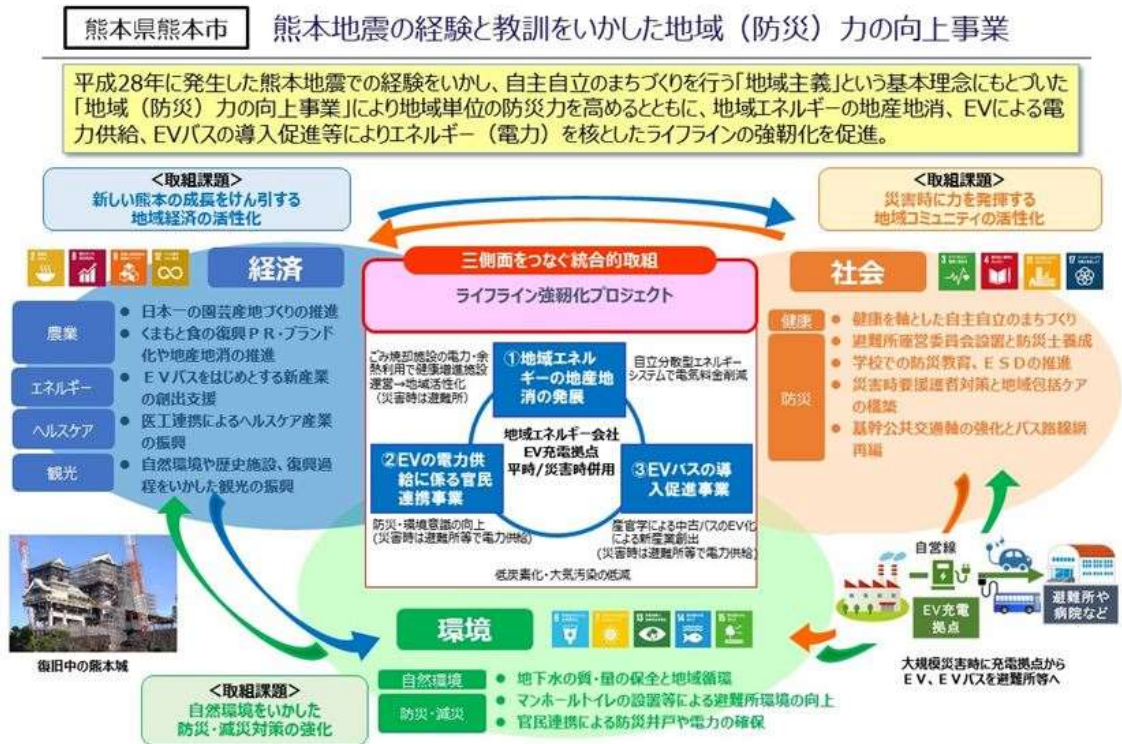
- 中核市、人口 50 万、盛んなものづくり、姫路城などの文化財、瀬戸内海沿い、交通の便の良さという点で福山市に非常に近い。
- 同市は、城郭の国際ネットワークと若者の視点を中心にした SDGs 推進計画を持っているが、社会、環境、経済の連携を高校生など若い世代の関与を促すことで推進。姫路大学、兵庫県立大学 2 キャンパス、姫路獨協大学（公立化の動き）の大学 4 校と協働。
- 未来都市は各自治体の特徴を打ち出し、売りにしており、連携には必ずしも向かない特徴。

4. 熊本県と熊本市

熊本県

- 未来都市応募の予定なし。採択されると事業化する必要があるが、その余裕なし。県内の連携や普及啓発の役割を担う。
- 2016 年の地震や 2020 年の豪雨などの危機意識の高まりもあって、県民の意識向上やメディアの呼びかけで、期待高まり、環境醸成。地震、コロナ、豪雨のトリプルパンチ。被災者を誰一人取り残さない。
- 未来都市の熊本市が企業認定制度を全国ネットワークのある三井住友海上と始めたが、市に留まらない活動をする金融機関などの意向で県が担当することに（熊本県 SDGs 登録制度）。未来都市、それ以外の自治体も対象に研修し、また企業登録を推進。2021 年度で 1 千社超で予想超え。金融機関がこれを見て企業に融資判断。制度支援、伴走支援、金利優遇など。
- 県は各自治体に地域の企業に登録呼びかけ。シンクタンクなどとも連携。登録企業は市の 6 割、圏では 7 割。サービス業多い。大企業は単体でできるが、中小はネットワーク化の必要。
- 職員の意識向上には、SDGs そのものの研修ではなく、各分野がどうつながるかを作業することが一番研修。

熊本市（2019年、2021年採択）



○熊本市は、未来都市・モデル都市として、金融機関をフルに巻き込んだ活動をし、くまもとSDGs推進財団は、災害時の支援を充実させるためSDGsの理念を元に多くの団体の支援で設立された。

○課題は複合的に関係しているので共通言語としてのSDGsの強みが出る。

○企業の意識の高まりがあり、CSV、価値創造。登録するメリット。

くまもとSDGs推進財団

○中間支援組織としてのコミュニティ財団として、休眠預金や遺贈寄付をうまく活用し、持続性のあるソーシャルビジネスを支援。

○SDGsをツールとしてセミナー開催やコンサルティングなどの活動で繋がる。

○行政の縦割り性や行動原理である公正性から機動的にできないところを、NPOが柔軟に代わりにできる。

○スキルやリソースを持ち寄る手段としてSDGs活用。

以上